

がん患者支援のためのセルフ・ウォーク・リレー

勝浦ゼミナールII

城西大学経済学部4年谷口凌太郎

★リレーフォーライフ（RFL）が誕生した背景

1985年にアメリカのワシントン州シアトル郊外のタコマで始まったきっかけは一人の医師が、アメリカ対がん協会の為に寄付を集めようと24時間走り続けた彼の名は、ゴールドイー・クラットさんでマラソンの得意な腫瘍外科医であった彼は、「**がん患者は、24時間病気と向き合っている**」と述べた

★リレーフォーライフの想い

使命：**Save Lives**（人の魂を救う）

三つのテーマ

- ①**祝う**（がんの告知を乗り越え、生きていることを祝福する）
- ②**しのぶ**（旅立った愛する人たちをしのぶ）
- ③**立ち向かう**（がんで苦しむ人や悲しむ人を無くす社会をつくる）

↓

がん患者さんやご家族を支援

地域全体でがんと向き合い、がん征圧を目指すチャリティー活動です

★RFL川越のこれまでの成果

- ①延べ参加者総数：**59万人**
 - ②がん患者が歩いたがんサバイバーステップ：**8700キロ**
 - ③参加したがんサバイバー数：延べ**34,767人**
 - ④夜通し灯された希望の数：**336個**
 - ⑤プロジェクト未来研究助成数：延べ**904件**
- 寄付総額は**10.8億円**（2018年3月）

★RFL川越の寄付の活用先

・**がん患者ホットライン**

医師や看護師などによる電話・面談、相談を年間約1万件をお受け中

・**がん征圧：プロジェクト未来**

日本癌学会と協力し、新しい医療法や新薬開発に向けた研究の助成に寄付が活用

・**がん征圧：若い医師育成**

日本国内の意欲ある若手医師が、がんについての高度な知識を学ぶため、海外の専門施設で研究するための費用の一部を助成

・**がん征圧：がん検診受診率アップ**

5つのがんを対象に受診を呼びかけるキャンペーン

乳がん無料クーポン配布や子宮頸がん啓発セミナーなど多角的なプログラムを通じて意識改革を促している

★後援

厚生労働省

中外製薬、ECC、武田薬品、POLA、大日三共 等



地域連携活動発表会

2022

★RFL（川越）セルフウォークリレー取り組み

期間：2021年9月18日～2021年9月26日

参加人数：全体148名

勝浦ゼミ43名+先生1名

目標歩数：1,012,000歩

成果歩数：全体15,072,984歩、

勝浦ゼミ2,547,137歩（全体成果率16%）、（目標達成率251%）

ゼミ生1位：276,774歩（全体13位）

ゼミ生2位：250,066歩（全体18位）

ゼミ生3位：195,191歩（全体26位）

場所：自由

参加費：1,000円、アプリ：minpo

寄付金の用途：歩いた歩数が、ご賛同いただいた企業や個人の方からの

「マッチング寄付」に変わり、集まった寄付金は「がん相談ホットライン」の運営資金に使われる

1人の相談を40,000歩で支援できる

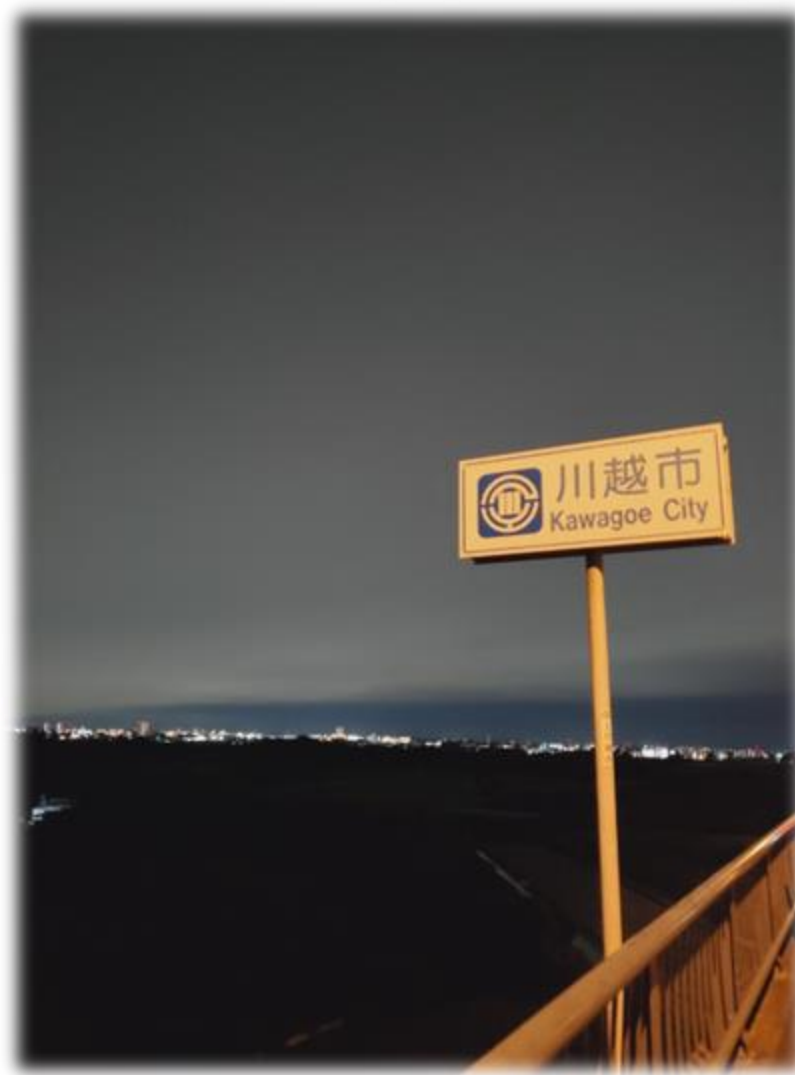
★個人の取り組み

セルフウォークリレーなため、私、谷口がどこを歩いていたのか紹介します！

- ・大宮駅～川越市駅（14.7キロ、約3時間）
- ・大宮駅～春日部駅（15.3キロ、約3時間15分）
- ・新宿駅～秋葉原駅（25.6キロ、約5時間）

渋谷、青山、麻布、広尾、白金、品川、浜松町、新橋、銀座、日本橋、神田経由

- ・日本橋～押上駅（5.3キロ、約1時間）等



友達と歩きました！

夜景が綺麗で涼しかった

★感想

- ・一つの目標に向かって同じ志を持ち、活動ができた
- ・歩く場所を予め決めるのではなく、色々な場所を歩くことで一週間歩き続けることができた
- ・大学の講義がオンラインで外に出る機会がなかったが、歩くことで運動不足が解消できた
- ・セルフウォークでしたが友達と歩くこともでき、有意義な活動でした
- ・ゼミ生たちの貢献は、主催者たちから高く評価され、感謝状も頂くことができた



地域連携活動発表会

2022